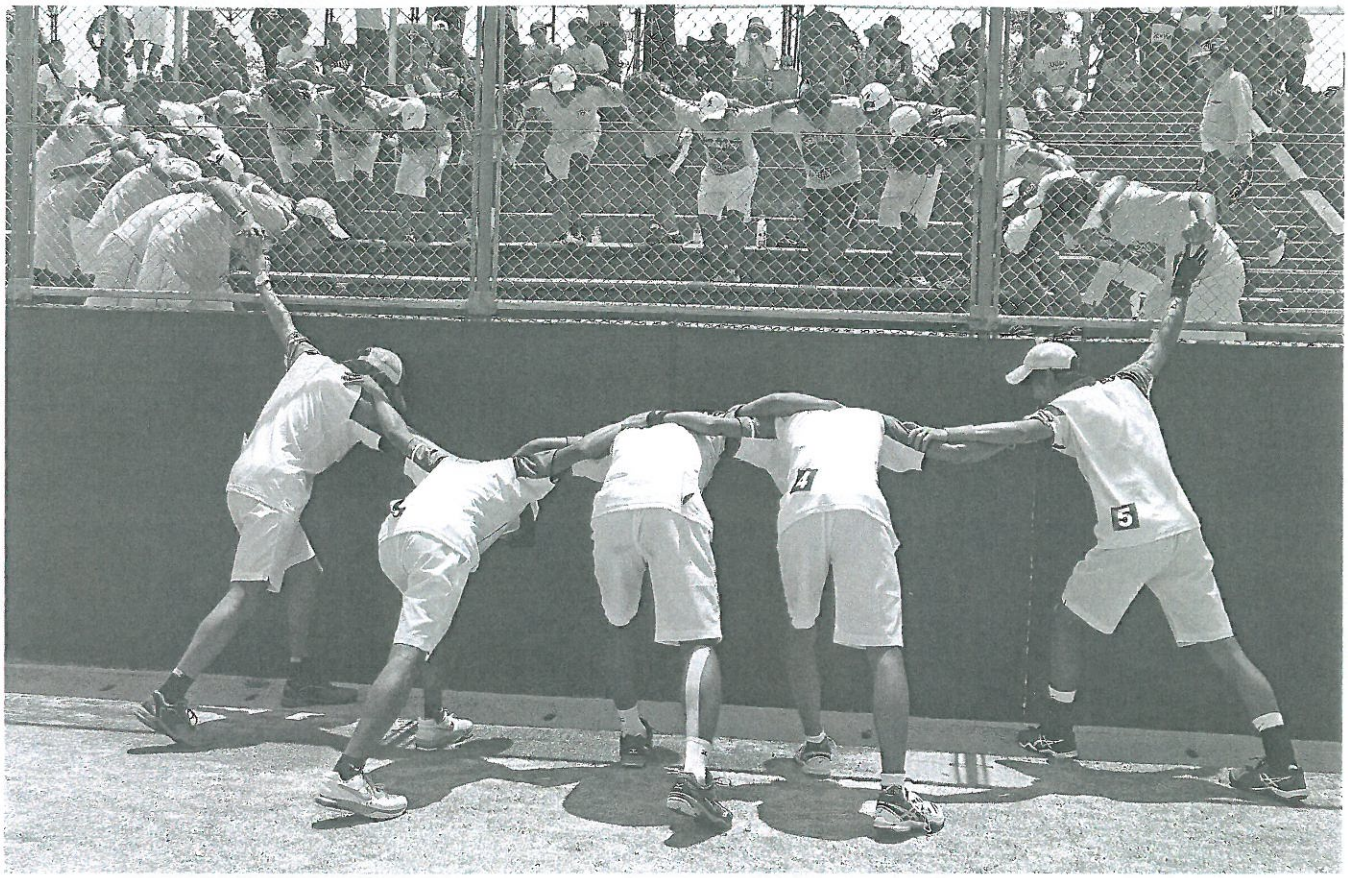
第74回 全国高等学校対抗テニス大会
第107回 全国高等学校テニス選手権大会

（8月2～8日／会津総合運動公園テニスコート、あいづドーム）

繋がる絆 魅せよう僕らの若き力



南東北インターハイ

全出場校写真付名鑑＆大会展望

競技日程

【団体の部】	第1日目	第2日目	第3日目
	8月2日(水)	8月3日(木)	8月4日(金)
男子団体	1～2回戦	3回戦、準々決勝	準決勝、決勝
女子団体	1～2回戦	3回戦、準々決勝	準決勝、決勝

【個人の部】	第4日目	第5日目	第6日目	第7日目
	8月5日(土)	8月6日(日)	8月7日(月)	8月8日(火)
男子単	1～4回戦	—	準々決勝、準決勝	決勝
男子複	—	1回戦～準々決勝	準決勝	決勝
女子単	—	1～4回戦	準々決勝、準決勝	決勝
女子複	1回戦～準々決勝	—	準決勝	決勝

※試合開始時間はすべて9時

会場

開会式：**會津風雅堂**（ホール）
〒965-0807
福島県会津若松市城東町12番地1号

競　技：**会津総合運動公園テニスコート**
（砂入り人工芝コート20面）
あいづドーム（砂入り人工芝コート4面）
〒965-0826
福島県会津若松市門田町御山村上164番地

参加制限＆競技方法

【団体】
●原則として出場枠は、都道府県に男女各1校を割り当てる。東京都・神奈川県・大阪府・開催地（福島県）は男女各2校とする
●ダブルス1組、シングルス2名の対抗トーナメントとし、1～3回戦は8ゲームズプロセットで行い、準々決勝以降は3セットマッチを原則とする
●各チーム5名登録。ダブルス1組を作り、シングルスは残り3名のうち2名が登録順位に従って出場。シングルスとダブルスを兼ねることはできない

【個人】
●出場枠は男女各シングルス128名、ダブルス64組を原則として、都道府県にシングルス2名、ダブルス1組を割り当てる
●シングルス、ダブルスともにトーナメントとし、シングルス4回戦、ダブルス準々決勝まで8ゲームズプロセットで行い、以降は3セットマッチを原則とする

2017 南東北インターハイ

大会展望

男子団体　女子団体

層の厚さを誇る相生学院。初優勝を目指す秀明八千代、大分舞鶴。名古屋、大成、東海大菅生もV狙う

春夏連覇を狙う相生学院に、柳川、湘南工大附、岡山学芸館が挑む。混戦から抜け出す可能性も十分あり！

■団体戦

夏のインターハイ団体戦はシングルス2本、ダブルス1本の3ポイント制。ダブルス→シングルス1→シングルス2の順で試合が進行する。勝利に必要な2勝をどう奪うか。先手必勝は言うまでもない。

男子のトップシードは夏春連覇を達成した**相生学院（兵庫）**。この夏もエースの菊地裕太を軸に実力者たちが揃う盤石の布陣。実力、大舞台の経験ともに申し分なく、「チームとしても最高に充実している」という荒井貴美人監督の言葉も納得。優勝候補の筆頭だろう。

第2シードには激戦の関東地区で優勝を飾った**秀明八千代（千葉）**が座った。春の選抜は準決勝で相生学院に敗れたものの、好勝負を演じた。白石光が計算できるだけに、残り2本をどう奪うか。主将の清水一輝、2年生の坂川広樹が鍵を握る。昨年はシード校ながら初戦敗退。その悔しさも忘れず、初優勝を目指す。

第3、4シードには東海王者の**名古屋（愛知）**と九州王者の**大分舞鶴（大分）**が選出された。名古屋は突出した選手こそいないが、チーム力が高く、昨夏は6年ぶりの出場から準優勝。シングルス1の高羽蓮をはじめ2年生主体だが、全員が力を出しきれば7年ぶり5度目の優勝も夢ではない。大分舞鶴は九州地区で宿敵・**柳川（福岡）**を下して優勝し、2年ぶりのシードを勝ち取った。田口涼太郎、井上隆也、河内健の2年生トリオの出来がポイントか。初戦のダブルスを取って勢いに乗りたい。

上位4シードには入らなかったが、関東地区4強の**慶應義塾（神奈川）**と**大成（東京）**も実力は高い。柳川と清風（大阪）の古豪も夏の強さには定評があり、他校には怖い存在だろう。春の選抜準優勝の**東海大菅生（東京）**、夏は2年連続4強の**岡山理大附（岡山）**もV争いに顔を出せる力を持つ。四国王者の**高松北（香川）**、シングルス2本を間仲啓&松下竜馬の1年生が務める**秀明英光（埼玉）**にも注目だ。

女子は男子同様、春の選抜優勝校の**相生学院（兵庫）**が第1シードに入った。チームを牽引するのはエースの田中李佳。残る4人のメンバーは全員が2年生だが、一丸となって県大会と地区大会を制した。昨夏は出場を逃しているだけに、この夏にかける想いは強い。

第2シードは**柳川（福岡）**。春は相生学院に優勝を阻まれたが、大きな差はない。宮原三奈、松本妃那のシングルス、渡邊千佳／東佑希乃のダブルスは不動のオーダー。全員テニスで初優勝をつかめるか。

関東地区を制した**湘南工大附（神奈川）**と中国王者の**岡山学芸館（岡山）**が第3、4シード。湘南工大附は毛塚智瑛、小林ほの香の2年生がチームの中心。3年生は不在だが、バランスのとれた戦力で勝ち進んできた。岡山学芸館は昨夏とほぼ同メンバー。エースで主将の平田歩を太い柱に、全員が攻撃的テニスに磨きをかけている。まずはシードを守って4強、そこから初Vを狙いたい。

山梨学院（山梨）は関東地区2位の好成績。チームを牽引したのは1年生エースの坂詰姫野。シングルス2の猪股莉々花も手強く、優勝争いに絡んできそう。関東からは**秀明八千代（千葉）**、**早実**と**大成（東京）**の2校も強力だ。**大商学園（大阪）**、**京都外大西（京都）**の近畿勢、**愛知啓成（愛知）**、**四日市商（三重）**の東海勢も実力は高く、どこが抜け出してもおかしくはない。

■個人戦（シングルス）

男子は春の選抜で2連覇を成し遂げた**菊地裕太（相生学院）**が優勝候補の筆頭。対抗は、その菊地と決勝を争った**白石光（秀明八千代）**、そしてその白石を関東地区決勝で破った**丹下将太（早実）**の構図か。

昨年ベスト8の**武藤洸希**、ベスト16の**田形諒平**と大成のふたりも実力はあり、春の選抜で4強の**田口涼太郎（大分舞鶴）**、**清水盾佐（東海大菅生）**、ふたりの2年生がどこまで成長しているかも楽しみだ。

128ドローに1年生は11人が名を連ねる。**松下龍馬（秀明英光）**、**横田大夢（足利工大附）**、**吉野郁哉（西宮甲英）**らが徳田廉大（湘南工大附）以来4年ぶりとなる1年生優勝を目指す。

女子は春の女王の**黒須万里奈（山村学園）**がトップシード。準優勝の**宮原三奈（柳川）**が第2シードだが、大混戦となりそう。関東地区を制し、また一般大会でも活躍する**興石亜佑美（浦和麗明）**、そのライバルでもある**西郷里奈（秀明八千代）**も優勝候補に名が挙がる。近畿女王の**田中李佳（相生学院）**、東海女王の**阿部宏美（愛知啓成）**も力強く、**坂詰姫野（山梨学院）**、**神鳥舞（早実）**は1年生Vを狙う。

個人戦シングルスのヤマは1日で行われる1～4回戦だろう。酷暑の下、8ゲームマッチのこの4試合をどう乗り切るか。団体、個人ダブルスと3種目出場者にはハードな日程となるが、まさに敵は我にあり。気力、体力、精神力が問われる戦いとなる。

シード4校主将コメント（抜粋）

【男子】

●秀明八千代（千葉）／清水一輝

「シングルスを軸にチーム全員で力を合わせていけたらいいと思います。1勝1勝を積み重ねて、最後には優勝したいです。試合では一人ひとりが目の前にいる相手に勝つことに集中し、その結果がチームの勝利につながると思っています。関東大会で2連覇した自覚と自信を持って頑張ります。まずは初戦突破を目標に、一戦一戦全力で臨みたいと思います」

●名古屋（愛知）／三上和馬

「僕たちは3年生がひとり、2年生が4人というメンバー構成になっており、2年生が主体となっています。昨年のインターハイでチームを準優勝に導いた高羽を筆頭に、シングルスとダブルスのすべてで勝ちきりたいです。今年は必ず優勝をつかみとります」

●相生学院（兵庫）／平川暉人

「昨年のインターハイでは目標としていた団体優勝ができ、さらに春には全国選抜でも歴代3校目となるアベック優勝を果たしました。今年のインターハイも先輩方が築かれた伝統を引き継ぎ、部員全員で優勝を目指して頑張りたいです。応援をしてくれるたくさんの方、仲間のためにも2年連続優勝、春夏連覇を達成したいと思います」

●大分舞鶴（大分）／大野文也

「目標は優勝です。選抜では悔しい思いをしましたが、その後の練習では部員全員が勝ちにこだわり、一球一球を大切にし、日々練習に励んできました。今大会では九州王者というプレッシャーを力に変え、日頃支えて下さっている方々への感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。目標である全国優勝を成し遂げ、全員が悔いの残らない大会にしたいと思います」

【女子】

●湘南工大附（神奈川）／小林ほの香

「2年という自覚を持ち、みんなを引っ張っていけるキャプテンになること。そして、みんなで団結して協力し合い、ひとりひとりが全力でプレーし、優勝することが今大会の目標です」

●相生学院（兵庫）／田中李佳

「相生学院は総合力が高いので全国選抜は優勝しましたが、インターハイでは個人の力がもっと求められます。そのため、一人ひとりがチームの勝敗にかかっていることを自覚し、全員が優勝するという高い目標を持って日々練習に励んでいます。昨年は出場することができず、悔しい思いをした先輩の分まで悔いのないように頑張ります。相生学院らしいテニスで春夏アベック優勝を目指します」

●岡山学芸館（岡山）／平田歩

「昨年のインターハイ、今年の全国選抜は3回戦で敗退し、とても悔しい思いをしました。春からは新入部員も加わり、総勢15人になり、賑やかになりました。レギュラーメンバーもそれ以外の部員も、皆がインターハイでの勝利を目指して日々精進してきました。この夏、部員全員が悔し涙ではなく、うれし涙を流すことができるように後悔のない大会にします」

●柳川（福岡）／渡邉千桂

「私たちは昨年の選抜、インターハイ、今年の選抜で、ベスト8、ベスト4、準優勝と段々と結果を上げていきました。しかし、いつもあと一歩で悔しい思いをしてきました。今年のインターハイこそは、これまでの悔しかった思いをぶつけて優勝だけを目指します。ほとんどが3年生のチームで私たちが戦える最後の団体戦。だからこそチーム全員の思いを背負って頑張ります！」